

[1階・2階]

アクティブスペース

生徒が自発的に学習するための空間として、普通教室(南側)と特別教室(北側)の間に各教科ごとに分けて配置されています。

このスペースには、各教科で学習する資料や展示物を備え付け、教員によるプレゼンテーションや研究スペースとしても活用されます。



[1階]

メディアホール

映像装置を備えた階段状の教室で、学年単位での学習が可能です。

収容人員は120人で、さまざまな専門家を講師に招いた授業やインターネットライブ授業を実施することができます。



建設委員会委員長

Interview



永井 智海 さん
(佐田)

Chikai Nagai

建設委員会では、福井大学の松下教授を始め、中学校PTA会長、区長会長等計10人の委員の皆様にお集まりいただき、通算11回にわたり協議を重ねました。施設内容については、現代の教育環境にふさわしいものをと、県内の新しい校舎の視察、また実際に学校生活を送る生徒や先生方にアンケート調査等を行い、新校舎の建設計画を立てました。

改めて校舎を見渡すと、幅広く意見を反映したことで「人とのふれあい」が深まる先進的な学校に完成したと大変嬉しく思っています。

次代を担う生徒の皆さんには、この学び舎で多くのことを吸収し、すばらしい人材になることを期待します。

また、町が進めるエネルギー環境教育の設備を整備したことにより、町の拠点施設として活用されること期待されます。

次代の美浜町を担う
生徒たちの活躍を期待します



[1階]

ランチルーム

御岳山を眺めることができる南東側に配置されており、明るい空間の中で学年ごとに給食を食べます。

座席は128席あり、食育学習をする場としても活用されます。

[1階]

交流エリア

生徒同士の交流が深められる中央広場として位置づけしています。仮設ステージの設置等によりさまざまなイベントの会場としても活用できます。

また、壁面には環境モニタリングのディスプレイ(写真中央部)が設置されており、屋外に設置している「太陽光パネル」・「風力発電」の発電状況等を確認することができます。



美浜中学校 PTA 会長

Interview

地域全体で子どもたちを 見守っていきましょう



野原 正明 さん
(新庄)

Masaaki Nohara

保護者の皆様が待ち望んでおられた新校舎が完成し、新たな美浜中学校の歴史が始まろうとしています。

新校舎は、これまでの校舎とは作りが大きく違い、何と言っても開放感があります。また、窓が多くて校内が非常に明るくアクティブスペースも広々としており、自然エネルギーを利用しての太陽光発電や風力発電、雨水利用等数多くの最新のシステムが装備されています。

新しい環境に慣れるまで戸惑いを感じると思いますが、一日でも早く馴染んでいただき日々の学校生

活を送ってほしいと思います。

机や椅子等は今までの物を使用しますが、新しい物ばかりの中にあつて面影の残った物があるのも良いものだと思います。今後も、新校舎をきれいに大切に使用していただき、たくさんのお思い出を残してほしいと思っています。

最後に、新校舎建設にご尽力いただきました皆様にご心より感謝を申し上げます。PTAでは、今後も学校、保護者、地域の皆様と連携し、地域の宝である子どもたちを見守っていききたいと思っておりますので、ご支援を宜しくお願いします。

[2階]

エネルギー環境教室

エネルギー環境教育を実践するための専用教室です。天井には、ドーム型のプラネタリウムが設置されており、いつでも天体学習が可能です。

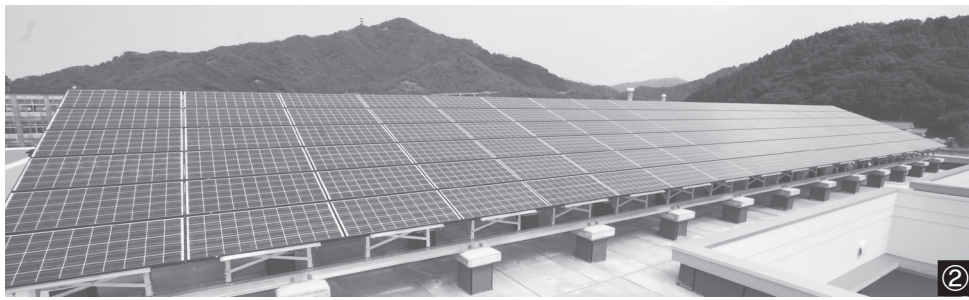
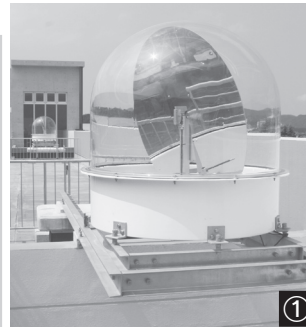
室内には、原子力発電所の模型やエネルギー環境教育を学ぶ上で必要となる実験機器を配備しています。



[屋外]

エネルギー環境教育設備

- ①太陽光集光装置…太陽光を鏡で反射させ中庭を明るくする装置です。(屋上に2基設置)
- ②太陽光パネル…縦5.2m、横46.7mで最大30kWの発電が可能です。(屋上に設置)
- ③風力発電装置…ジャイロミル式の風力発電で最大1kWの発電が可能です。(校門入口に1基設置)



美浜中学校校長

Interview



福田 洋一郎 校長
(佐野)

Yoichiro Fukuda

新しい環境で、新しい教育を

美浜中学校の新校舎及び体育館の完成にあたり、お世話になりましたすべての皆様方に心から感謝を申し上げます。

生徒諸君には、この学校建設にご尽力いただいた方々に感謝し、この新しい校舎で一生懸命学び、いろいろな体験と感動を作ってほしいと思います。

本校では、今年度の教育スローガンを「新しい環境で新しい教育を」と掲げ、教職員一同、生徒の学力向上を始め、心豊かでたくましい人材を育てていくため、精一杯の教育を展開していきたいと思っております。

また、その教育活動をさ

らに発展させていくために、この新校舎をどのように活用していくかが課題ですが、時代のニーズに合った学習を取り入れ特色ある教育を推進していきたいと考えています。

これまでの学校のイメージが一新され、今まさに新たなスタートの時です。新しい学校で戸惑うこともあるかもしれませんが、町民の皆様の期待に添えるように、生徒を始め、教職員・家庭・地域が一体となり「生徒も教職員も喜んで通う魅力ある学校づくり」を目指していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願いします。

エコ川柳 コンクール作品を 募集します

美浜環境パートナーシップ会議「もったいないグループ」では、皆さんのエコに関する川柳を募集します。
あなたの環境に対する思いを川柳で表現してください。
多数の応募をお待ちしています。

● **内容**

エコに関する内容なら何でも構いません。

(例)「地球温暖化」・「ゴミの減量化・資源化」・「もったいない」に関する など

● **応募資格**

特に指定はありません。

● **応募方法**

次の事項を用紙に記入し応募してください。(FAX・メール可)

- ① 作品 ② 住所 ③ 氏名
- ④ 年令 ⑤ 作品についての思い

● **応募締切**

10月20日(火)

● **審査・賞**

審査は、美浜川柳「虹」の会で行います。優秀作品には、賞状と記念品を進呈します。

- 冷暖房 止めて感じる 四季の風
- 一時間 早寝早起き エコライフ
- エコバッグ 地球の未来を 詰め込んで

(愛知県民・静岡県民の優秀作品)

※川柳とは、俳句と同じ五・七・五の17音からなる短詩で、季語は不要です。

※応募作品は、町民文化祭等で展示するほか、啓発パンフ等に活用させていただきます。

※応募・お問い合わせ先

T919-11192

美浜町郷市25-25

町住民安全課

(美浜環境パートナーシップ会議

事務局「担当：田辺・西村」)

「電話」32-6703

「FAX」32-5885

・メールアドレス

junin-anzen@town.fukui-

mihama.lg.jp

美浜環境パートナー
シップ会議って？



住民の方で構成された組織で、3つのグループからなり、環境問題の解決に向けた事業を考えて実行しています。

「自然の保全再生グループ」

美浜の美しい自然を保全・活用するために活動しているグループ

「自然と遊び学ぶグループ」

環境に関する遊びや体験学習を研究しているグループ

「もったいないグループ」

地球温暖化やゴミの減量化・資源化等に取り組んでいるグループ

エコキャップの回収に

ご協力をお願いします。

町では、ポリオワクチンの購入費用に充てられるエコキャップを回収しています。キャップ800個で1人の命が救われます。

皆さんの善意をお待ちしています。

□ **対象**

ペットボトル飲料のキャップ(飲料以外のキャップは、材質が異なるため回収できません。)

□ **回収先**

町社会福祉協議会と町住民安全課に回収箱を設置してあります。キャップは軽く洗い、シールは剥がしてお持ちください。

□ **皆さんから寄せられたエコキャップを回収業者に搬入した数量**

	社会福祉協議会	美浜町
5月	560個	2,320個
7月	10,400個	-
8月	19,320個	3,720個

※ホームページ ふくいエコキャップ運動委員会参照



美浜発電所の状況



今回の報告では、8月18日から9月14日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

運転管理評価チーム（OSART）の
評価結果報告書が公表されました

関西電力(株)は、本年1月20日から2月5日までの17日間にわたって美浜発電所が受け入れた国際原子力機関（IAEA）「運転管理評価チーム」の現地調査について、8月25日、評価結果報告書が取りまとめられたとして公表しました。

評価結果については、調査最終日にも、評価チームのリーダーからは調査結果を概括して「大変良好」であるとの報告がなされていますが、このほど公表された報告書でも改めて、次のような結論や感想が述べられています。

●関西電力(株)と美浜発電所の管理層は、発電所の運転に関して安全性と信頼性の向上に尽力している。そのことは、「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」という社長宣言、3号機事故の再発防止対策としてまとめられた5つの基本行動方針、安全性の向上を目指して実施されている施策により明確に示されている。

●発電所の管理層、所員ともに安全に対して献身的であり、知識も豊富で、プロ意識に富んでいるというのが、評価チームの認識である。

●3号機事故の再発防止対策について、その活動の範囲や質の高さに評価チームとして感銘を受けた。

また、良好な事例については、既にIAEAのホームページを通じて全世界に向けて発信されており、来年夏頃には、評価チームによるフォーアアップ訪問として、提案事項や推奨事項として指摘のあった項目について調査が実施されることになっていきます。

※広報みはま1月号及び3月号に関連記事掲載



運転管理評価チームに運転管理状況を説明する片岡所長（右）

敦賀発電所1号機の40年目以降の
運転方針が示されました

日本原電(株)は、このほど敦賀発電所1号機(昭和45年3月運転開始)の運転停止時期について、平成28年とする方針を表明しました。

敦賀1号機の運転停止時期は、これまで平成22年とされてきましたが、運転開始後40年目以降も適切な保全により安全に運転できることが確認できたと、また、3・4号機の運転開始時期の見直しや地球環境問題への対応、原油高等さまざまな環境が大きく変化したことが方針変更の理由としています。

10月26日は原子力の日

原子力の日は次の出来事を記念するために昭和39年7月に制定されました。

▷昭和31年10月26日

日本が国際連合の専門機関の一つである国際原子力機関(IAEA)に参加

▷昭和38年10月26日

茨城県東海村の日本原子力研究所(現：日本原子力研究開発機構)の動力試験炉(JPDR)が日本で初めての原子力発電に成功

美浜1号機

第24回定期検査中

(平成21年8月17日)

12月上旬予定

美浜2号機

定格熱出力一定運転中

(平成21年7月23日)

美浜3号機

定格熱出力一定運転中

(平成20年12月10日)